

第1章 目的・研究の意義

1. 研究の目的

近年、障害のある学生の高等教育機関への進学は増加の一途を辿り、視覚及び聴覚に障害を併せ有する盲ろう学生も例外ではない。また、一般に盲ろう学生の支援にあたっては、視覚障害の専門家及び聴覚障害の専門家の連携のもとになされる場合が多いが、盲ろうの特性から単に視覚障害及び聴覚障害の知識を結合したのみでは十分な支援を行うことは不可能である。こうした背景にあって、盲ろう学生のニーズを適切に把握し彼らに必要なとされる支援を構築できるコーディネーターとしての盲ろうの専門家が必要とされる。

しかしながら、盲ろう学生が大学など高等教育機関において学習する上での支援及び日常生活する際の支援を担当できる専門家はきわめて少ない。また、そのような専門家を養成するためのカリキュラム及び養成機関はほとんどないのが現状である。そこで、本研究は、実際に盲ろう学生が在籍する国立大学法人筑波技術短期大学 障害者高等教育センターと共同研究を行い、実際の支援活動を通じて、盲ろう学生の教育・日常生活支援専門家養成カリキュラムの構築を行うことを目的とする。

2. 研究の意義

一般に盲ろう学生の支援にあつては、視覚障害の専門家及び聴覚障害の専門家の連携のもとになされる場合が多いが、盲ろうの特性から単に視覚障害及び聴覚障害の知識を結合したのみでは十分な支援を行うことは不可能である。何故ならば、盲学生については音声などによる情報保障、ろう学生については視覚情報による情報保障が可能であることに對し、盲ろう学生についてはその両方とも不可能であるからである。さらには、視覚・聴覚の両方に障害を併せ有していることから、講義・演習における討論の参加、実習の参加及び日常生活等における行動の制限が生じてくる。

また、近年当研究所に対しても、障害者高等教育支援に関わる専門家研修に関する研究の要望が高まってきている。

こうした背景にあって、盲ろう学生のニーズを適切に把握し支援を構築できるコーディネーターとしての盲ろう学生教育・日常生活支援専門家養成が必要とされる。

そこで、本研究は、盲ろう学生が在籍し、かつ内外の関係諸機関との連携のある筑波技術短期大学と共同研究を行うことによって、盲ろう学生支援の専門家養成研修のためのカリキュラムを開発することに意義がある。

3. 研究組織

平成 16 年度

独立行政法人国立特殊教育総合研究所 教育支援研究部

佐藤 正幸 (総括主任研究官)

中澤 恵江 (総括主任研究官)

共同研究機関

国立大学法人筑波技術短期大学 障害者高等教育センター

岡本 明 (教授)

平成 17 年度

独立行政法人国立特殊教育総合研究所 教育支援研究部

中澤 恵江 (総括主任研究官)

共同研究機関

国立大学法人筑波技術短期大学 障害者高等教育センター (～平成 17 年 9 月 30 日)

国立大学法人筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター

(平成 17 年 10 月 1 日～)

岡本 明 (教授)

佐藤 正幸 (教授) *

* 平成 17 年 9 月 30 日まで独立行政法人国立特殊教育総合研究所 教育支援研究部
総括主任研究官